

2015年4月26日主日礼拝

説教「人数が多すぎる！」

士師記7章1-8節

【ギデオンの300人】

たった300人のイスラエル人。ミデヤン人は13万5千人。つまり、400対1。これは、まったく勝ち目がない戦いです。これで勝ったら、それは、だれがどう考えても神さまの力であることは明らかです。「イスラエルが『自分の手で自分を救った』と言って、わたしに向かって誇るといけないから」(2)とあります。イスラエルを救ったのは、神さまであることが、はっきりとするために、神さまはこうなさいました。神さまだけが、イスラエルを救うことができることを教えるために、そうなされたのです。

神さまは、私たちがどんなピンチからも救うことができます。だから私たちは、あわててはなりません。ピンチのときには、まず深呼吸して、神さまが、何をなさろうとしているのかを思いめぐらすのです。私たちが考えつくもっとも素晴らしいことよりも、さらに素晴らしいことを神さまがしてくださるのですから。

【聖霊よりも前に出てはならない】

聖霊よりも前に出てはなりません。神さまのみわざを、邪魔することはだれにもできないのですが、私たちが聖霊よりも前に出てしまうとき、神さまは、みわざを控えてしまわれることがあるというのです。ピンチになるとつい焦ってしまう私たち。じっとしていることができずに、前に出てしまう私たち。そんな

私たちが、どうしたら、神さまを信頼することができるでしょうか。

この300人の記事で、ギデオンは迷いなく、神さまに従っています。ギデオンは元々はそのような信仰の持ち主ではありませんでしたが、変えられました。6章で神さまにつぶやき、不平を言い、神さまからのしるしを求めたギデオン。そうした祈りの中で神さまに向き合うことによって、変えられたのです。

神さまに心を向けること。罪あるときには、罪の赦しを願うこと。恐れのあるときには神さまの手から平安をいただくこと。そのような祈りの生活の中で、神さまに信頼する人々が作られていくのです。

【ピンチのときにも】

また、ピンチのときこそ、私たちの神さまがどのような神さまであるのかを思いだしたらよいのです。私たちの神さまは、私たちが贖ってくださったお方。神さまのご熱心が、私たちが救ったのです。ご自分の御子をも与える熱心な愛によって私たちは救われました。この父なる神さまが、私たちに、最善以下のことをお命じになるはずはありません。私たちがピンチにあるとき、それは神さまが知らないところで起こっているわけではありません。神さまは、私たちが放っておくことなど、決してなさいません。

【冒険の神さま】

神さまは「冒険の神さま」です。「冒険」というのは成功するかどうか分からない企てに敢えて乗り出すこと。神さまは、むりやり人に言うことを聞かせる

ことはなさいません。ギデオンにも300人で戦うかどうかを選ぶことができました。だから神さまは、冒険をしておられるます。人の心に関しては、成功するかどうか分からない企てに乗り出されたのです。

神さまの冒険は、いつも私たちのためです。私たちが贖い、私たちを成長させて、私たちと共に働くために冒険に乗り出してくださるのです。

冒険の神さまに従うことは、私たちにとっても、はらはらドキドキさせられることです。それでも神さまを信頼すると心に決めて、冒険に乗り出すときに、神さまのみわざは進められていきます。冒険の神さまは、私たちを冒険に招く神さま。さあ、私といっしょの船に乗りなさい。あなたがたが、見たことのない世界を見せてあげようとおっしゃるお方です。

【危険を冒す神さま】

冒険にはもうひとつ、字の通り危険を冒すという意味があります。でも、神さまに従うという冒険には、ほんとうの危険はありません。私たちの冒険は神さまに保証された冒険。神さまのみ手の中に守られた冒険だからです。

実は、ほんとうの危険を冒されたのは神さまだけです。御子を十字架につけてしまわれたのですから。私たちは、この神さまを信頼して冒険に乗り出します。いえ、すでに冒険は始まっているのです。この冒険の中で、私たちはますます神さまに信頼するのです。神さまに向き合い、そのみうでの中に、やすらぎつつ、神さまとともに世界を変えるという冒険を続けるのです。